

学問と行動・初めてのボランティア

大学生 長村 歩実

私は大学で日韓を中心とした東アジアの国際政治を学んでいます。国家間関係として語られる「ハイレベルな世界」の学びを通じて、様々な問題を抱える国際関係を個人レベルに落とし込んだとき、私自身には何ができるのだろうか、と考えるようになりました。たどり着いた結論は、「考えるだけでなく行動すること」「さまざまな生き方・価値観をもつに触れ合うこと」「柔軟にインプットし、積極的プットすること」でした。日韓アジア基金のボアへの参加を決めたのは、NPOで活動するアジア基金が行っている活動が、まさに私の「気具現化できるものだと思ったからです。そしてボランティア活動を終えたいま、この選択は間違かったと確信しています。今回の体験は、グロエスタという20年続く大規模な啓蒙イベントとも知らず、ボランティアに参加したこともなにとって初めて尽くしのもので、まさに驚きと続でした。開発援助をサポートしている団体がに多いこと、さまざまな地域・分野における援

があることへの発見に始まり、イベントへの来場者には授業の一環として毎年参加している中学生から、個人的な興味から始めて来場した大学生、留学から一時帰国中の日本人、来日中の韓国人、銀行で非営利機関への投資を担当している職員の方など、本当にさまざまな属性を持つ人が大小かかわらず何かしらの問題意識をもってグローバルフェスタに実際に足を運んでいるということを知りました。

また、グローバルフェスタへの来場者だけではなく、ボランティア参加者や他団体の参加者との出会いに



「72円」は教科書一冊の価格です。
この呼び掛けはとても効果がありました。

人と実際にアウトランティと・日韓づき」を実際にボっていな一バルフがあるこかった私発見の連想像以上助の形態



いよいよ始まりです。
その割に皆さん緊張してませんね。

においても私が知っている世界はまだまだ小さいもので、視野はいくらでも広げることができること、刺激を受けたり与えたりすることや理想を同じくする人と想いを共有することが行動につながることで、そしてこれまでボランティアに参加したことのなかった私がイベントに参加し、それを友人に伝えるという行動さえも、ひとつの“草の根活動”になり得るということにも気づきました。と同時に、ボランティア文化・寄付文化といったものに対する理解や積極性を人から導きだすことの難しさも身を持って知りました。ポジティブな面にもネガティブな面にも新たな気づきを得られたからこそ、草の根レベルでの活動を持続すること、人と人が対話をし、想いを伝え共有すること、それらを実現できる場を創

りだす機会が必要であることを認識し、そのために私にできることをしていきたいと改めて思うことができました。国際協力や開発援助に関心がある人だけではなく、「何か行動したいけど何をすればわからない」という想いを抱えている私のような人が、来年のグローバルフェスタに足を運んだりボランティアに参加することで新しい一歩を踏み出すことができることを願っています。